

自社分析 ～ 社内研修の選定

年 月 日 記入者

自社分析シート

2023年10月作成
株式会社 IME コンサルティング

この自社分析は、4つの項目について、設問に照らして自社分析・評価を行う形式で、四項目の分析内容をご用意しました。

(1)経営に関する実態、(2)生産管理に関する実態、(3)実務の管理・改善に関する実態、(4)人材育成関連の実態

評価が低い項目を高くするにはどうすれば良いかを見出す事が目的です。研修の選択・実施はその方法の一つと考えてください。

慎重を期するため、複数名の方で回答し集計されること、またさらに役職に基づき4つの項目を分担される事も良いと思われま

す。回答・分析は、次の要領で進められることをお勧めします。

①各分類の設問の理解

各項目の設問を読み、内容をご理解ください。

②自社の実態、所感等

枠ごとの複数の設問に対する自社の状態や気づいた点、感想などについて記入してください。

③評価

複数の設問に対する自社の実態について、次の基準でレベルを考え、5点満点で採点をしてください。

自社レベル 判定基準	悪い、不合格 他社に大きく劣る 低レベル、遅れている	あまり良くない 他社より少し劣る 業界で下位レベル	良い 他社(ライバル)と同等 中位、普通、世間並み	非常に良い 他社より優れる 業界で上位レベル	極めて良い 他社より極めて優れる トップクラス、先端
評価点	1	2	3	4	5

※ 複数名で回答した場合は集計して、合計点又は平均点を計算してください。

※ また「①自社の実態、気づき」の記入内容を共有して、集約と対応の検討をするのも有効です。

④対応研修名の確認

評価結果で、点数の低いものほど良くない状況で、研修等でのレベルアップが必要な項目と考えられます。

必要と考えられる対応研修名をピックアップして、実施についてご検討ください。



株式会社 IME コンサルティング
立居場 誠治

(1) 経営に関する実態

分類	設問	自社の実態、所感等	評価	対応研修名
経営 戦略	経営計画は戦略的に考えて作成しているか 戦略は、手順を踏んで作成しているか 調査・分析、予測等は適切に行っているか 戦略～戦略課題～対策～計画は、各種手法を利用し、役員等複数名で調査・検討しているか、成果は得られたか			経営戦略立案
	技術力、従業員の力量等は他社より高いか 他社に勝てる技術・技能・カンコツ等の特徴はあるか 設備や技術を応用・転用して新製品新サービスを開発する事は、考えられないか 技術技能の個人知を表出化、把握しているか 教育訓練 OJT で、個人知を後輩に教えているか 産官学など他社との協力による新事業は考えられないか			成長戦略と知的資本経、MOT
	現行の製品・サービスのライフサイクルに問題はないか 経営目標・売上目標は現在より大幅に高くないか 差額を埋める方法又は新しい収入源はあるか 新製品・新サービスの開発は必要か、取組んでいるか 体系的なアプローチをしているか 実現出来ているか			新製品・新事業開発
経営 管理 組織 管理	会社は団体(チーム)としてまとまっているか 規程等、各種ルールは整っているか、改定されているか 全員が自分の役割分担責任権限を理解・実践しているか 密かに職務権限外の越権行為をしている者はいないか 少なくとも管理者は、管理とは何をやる事が答えられるか 管理者は管理活動を行っているか、実務の問題はないか 実務者は「実行義務」「報告義務」「努力義務」を理解し実行しているか			経営管理・組織管理の基礎
	ISO の仕組みは実態とあっているか、ムリはないか 管理改善やトレーサビリティに使わないデータ採取はないか 認証は複数工場で個別にしていないか 統合の必要はないか			ISO-品質・環境・安全衛生

生産革新	多品種小量化、短納期化、ライフサイクル短命化は進んでいないか 現在の生産方式は、受注の状態にマッチしているか QCD の成果は充分か、問題は無い 売上高・受注量の割に人手不足、残業増が生じてないか			変化対応最適生産方式
	品質の安定化、コストダウン、人手不足、安全衛生等の問題は無い 設備投資で失敗や無駄が生じたことはないか 機械化・自動化は、体系的・計画的に進めているか 顧客企業は Web 受発注を指向していないか 工場のスマート化の必要はないか			機械化・自動化・スマート化

(2) 生産管理に関する実態

分類	設問	自社の実態、所感等	評価	対応研修名
生産管理	受注に対し人・設備・材料・手順等の準備は充分か 生産活動に支障は無い、結果の QCD に問題は無い 管理者による指示・説明・OJT、監視・測定は充分か 実務者の力量を評価・管理し適材適所は出来ているか 報連相等のコミュニケーションは適切・充分か 生産体制は受注の変化に応じ適切に改善しているか			生産管理の基礎
	方針・計画などに対しこれから対策しなければならない課題は把握しているか 計画・標準等に対して、実態にギャップ(問題)はないか 管理者は監視・測定・報連相で問題発見に努めているか 作業と QCD は十分に管理されているか問題は無い			課題解決、問題解消
	実務の実行に問題・不都合はないか、作業はスムーズか 「文書化された手順」はそろっているか、改定・最新版管理は充分か、不備や旧版の使用はないか 「作業者の力量」は定期的に評価し、教育・訓練・OJT などしているか 「管理者の指示管理スキル」は充分か、指示・説明は丁寧か、管理活動を行って問題対応をしているか 管理者は、指示をしてそれっきりになっていないか 3条件のバランス(機能分担と補完)は良いか			実務の指示・実行の 3条件の整備

(3) 実務の管理・改善に関する実態

分類	設問	自社の実態、所感等	評価	対応研修名
実務の問題管理改善	管理者・実務者は、作業と原価の関係を理解しているか 普段から実務の問題点を見つける活動をしているか 実務の問題・ロス、QC7つ道具、IE手法などを用いて体系的に分析し改善しているか 調査・監査などによる問題発見、原因究明を行っているか 実務のエラー、失敗の原因究明と対策を行っているか			実務の問題・ロスの発見と対策
	整理整頓不備で生産活動に支障は出ていないか 清掃清潔不備による設備・安全衛生管理の問題はないか 5Sのルールは明確か、受注や技術の変化に応じているか ルールの周知・理解に問題はないか 目で見える管理等を利用して分かりやすい工夫をしているか 5Sは適切に実行されているか、問題・ルール違反は無いか 管理者は、5Sの問題を見つけて、適切に対処しているか			5S活動と問題発見・対策の体制づくり
	ヒューマンエラーはリスクである、体系的に取り組んでいるか 対策をしても同じ不良や失敗が繰り返されていないか 実務のポカミスは、ポカよけ対策で終わらせていないか 対策は発生メカニズムの理解、実態調査、原因・要因追及、是正・予防処置など、体系的に行っているか			ヒューマンエラー・ポカミス対策
	製品別の原価と利益を把握しているか、赤字製品はあるか 原価管理は、費目別・部署別に指標を決めて管理改善しているか 原価ロスは適切に把握して改善・管理しているか			原価マネジメント
	作業ロスの発見・改善は適切に行ない、成果はあるか 作業の実施方法(メソッド)ロスはIEの分析手法等を用いて発見し、改善を行う方法を理解しているか 係長・リーダーは、指導監督を行い、実務の効率的運用を図っているか、実施効率の管理は充分か			IE技法の理解と活用 (ロス分析と現場改善の方法) (指導監督によるパフォーマンス向上)
	自分たちの作業が顧客満足と適合品質に直結する事の自覚はあるか 品質管理の考え方を理解・実践しているか 問題発見方法(QC7つ道具)を理解し管理に使っているか PDCAの管理・改善サイクルは理解・実践されているか			品質管理の基礎

(4) 人材育成関連の実態

分類	設問	自社の実態、所感等	評価	対応研修名
人材育成	管理者は管理活動を適切に行っているか 管理者のノウハウは表出化・標準化されているか 管理者の選任・育成・評価は適切に行っているか 実務者の個人知・暗黙知は表出化されているか 他の人に教えているか 実務者の OJT・教育・評価・処遇等の方法は明確で充分か			生産人材育成システムの考え方
	多品種小量、ライフサイクル短命化等の生産の変化はあるか 実務者は同じ作業を繰り返して経験を積んでいるか 経験を積むことが困難な滋養帯での技術技能伝承、教育、OJT の仕組みはあるか			実務人材育成・技術技能伝承 ・OJT
	社員全員、会社の仕組みを理解しているか 自分の役割分担、責任権限の範囲を理解・実践しているか 実務者は、三大義務「実行義務」「報告義務」「努力義務」を理解しているか 実務者はフォロワーシップ(ルールを守る事、指示に従う事、考え提案する事)を理解・実践しているか 実務者はQCDSの管理改善の重要性を理解しているか			実務者研修

整理・まとめ